

子どもたちには陸上教室などで、結果を出すことだけでなく、一緒につらい練習を乗り越えていく仲間や恩師、家族を大切にすることや、自分の目標を達成しようとするのが、これからの人生で役に立っていくと伝えていきます。

――野尻議長、大分市でも全国的に有名なマラソン大会が開催されますが、ご紹介いただけますか。

**議長** 「別府大分毎日マラソン」は、今年も2月3日に開催されますが、「びわ湖毎日マラソン」、「福岡国際マラソン」と共に、日本三大クラシックレースと呼ばれています。私が一番感動したのは、森下広一さんが初マラソン記録を大幅に更新する2時間8分53秒で優勝したレースです。中山竹通さんと争っていて、39キロ付近で中山さんが森下さんの肩をたいて「行けよ」と言った。バルセロナオリンピックでは、森下さんが銀メダル、中山さんが4位、谷口浩美さんが8位で、3人とも入賞した素晴らしい大会でした。

別大毎日マラソンは、東京オリンピック男子マラソンの日本代表選手選考会「マラソングランドチャンピオンシップ(MGC)」の出場権を獲得できるMGCシ

――佐藤市長、大分市で開催される世界的な大会をご紹介いただけますか。

**市長** まずは、「大分国際車いすマラソン大会」です。パラリンピックの父と言われた「太陽の家」の創設者である、故中村裕先生が車いすだけのマラソン大会を提唱し、1981年に第1回大会が行われました。以来、世界最高レベルの大会として国内外から多くのアスリートが参加しています。ハインツ・フライ選手が第13回大会から10連覇を、マルセル・フグ選手が第30回大会から6連覇を達成し、廣道さんも活躍されています。車いすを走らせるテクニクやスピード、駆け引きは、スポーツとしてもすばらしいと思います。

また、自転車レースである「OITAサイクルフェス」は、昨年5回目となり、2日間で約6万8千人の観客が訪れました。大分いこいの道周辺の1キロコースを30周する「おおいたいこいの道クリテリウム」と、大分スポーツ公園周辺の10キロコースを15周する「おおいたアーバンクラシック」が昨年から国際自転車競技連合(UCI)の公認レースになりました。今年は東京オリンピックを見据え、有力な選手が出場するこ



フリーアナウンサー  
財前真由美



大分市議会議長  
野尻哲雄



スポーツキャスター・マラソン解説者  
高橋尚子



大分市長  
佐藤樹一郎



建設が進む新国立競技場

とが想定されますので、事前に日本の暑い夏を経験してもらおうというところで、8月に開催したいと考えています。

今年「ラグビーワールドカップ2019」が開催され、大分市がキャンプ地となるフィジーやウルグアイをはじめ、ニュージランドやオーストラリア、ウェールズといった強豪が出場する予選3試合と準々決勝2試合が、大分スポーツ公園総合競技場で行われます。キャンプなどで来訪する代表チームが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、豊後企画大分駄原球技場を含む駄原総合運動公園の整備を進めています。

私は学生時代、とても弱い選手でした。高校2年生の時に岐阜県代表として出場した都道府県対抗女子駅伝では、エースが出場しない2区を走り区間順位が47人中45位でした。「陸上競技を続けていて結果が出るんだろうか」と不安になった時は、「今は根を張っているんだ。これから花が咲くんぞ」という言葉を繰り返して地道に練習を続けました。その結果、シドニーオリンピックで金メダルという大きな花を咲かせることができました。

**高橋** 「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」。高校生の時に恩師からいただいた言葉で、何百回、何千回と繰り返してきた言葉です。

ところで、高橋さんにお会いしたら聞いてみたかったことがあって、座右の銘があるそうですが…。

「市民マラソンとしても定着していて、昨年の大会ではiPS細胞の研究者である京都大学の山中伸弥教授も走ってくれました。高橋さんにも、ぜひ来てもらわないといけませんね(笑)」